

令和元年度 印旛地区教育研究集会

2019. 8. 20 (火)

道徳研究部提案資料

話し合い活動を通して生徒の本音を引き出し、ねらいとする価値に迫る指導の工夫

八街市立八街中央中学校

藤江 智美

## 1. 研究主題

話し合い活動を通して生徒の本音を引き出し、ねらいとする価値に迫る指導の工夫

## 2. 研究主題設定の理由

### (1) 学習指導要領との関連

現在、教育現場は、新学習指導要領の完全実施を目前に控えている。新学習指導要領の柱は、「学んだことを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力、人間性など」「実際の社会や生活で生きて働く、知識及び技能」「未知の状況にも対応できる、思考力、判断力、表現力など」であり、主体的・対話的で深い学びの視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視していくことを目指している。時代の変化とともに、子どもたちの生きる将来の社会の形が大きく変化していくことを考慮したものと受け止められる。

このことを受けて、今年度より「特別な教科 道徳」として位置づけられている「道徳」は、「自分ごととして「考え、議論する」授業等を通じて、道徳性を育む。」ことを目指している。目の前にある課題を「自分ごととして捉える」必要があるというのは、例えば「いじめ」が起こってしまう現状の背景のひとつとして、「個人の道徳性が生かせず、傍観者でいること」の問題点がある。「自分ごと」として考えたときに、傍観者でいることは具体的に加担していなくても「いじめ」ている側に近い、ということを実感する必要性を指摘していると捉える。自分ごととして捉えて、他者との交流の中で自分の考えを確信に変えていく過程があり、そこで道徳性が伸長することを考えると、毎時間ごとの生徒の真剣な取り組みと深い思考を促す工夫が必要であると考え、本主題を設定した。

### (2) 八街中央中学校の取り組みとの関連

八街中央中学校では、平成29年度に「アクティブラーニング」を取り入れた学習指導の研究発表を行った。生徒が主体的に考え、行動する授業の組み立てについて各教科ごとに研修した結果、生徒達はグループで学習に取り組むことが日常的になっており、席替えの際にも4人グループのメンバーを意識するようになった。グループでの取り組みは、「分担して課題に取り組む」・「協力して課題に取り組む」・「知恵を出し合って課題を解決する」・「意見を交換して課題に対する考えを深める」といった形で実践され、授業の中心に据えておこなっている。グループ学習は、生徒にとって、わからないことの解決につながったり、学習内容を深める手がかりになっていて、活発な学習活動が行えるようになってきている。道徳の教科化に向けて、他教科と同じように積極的にグループ学習を取り入れていくことが、授業への関心・意欲とねらいとする価値に迫る真剣な思考を促すと考える。

### (3) 平成30年度の道徳の実践との関連

平成30年度の八街中央中学校の道徳は、年間指導計画に基づき、学年ごとに実態を考慮しておこなってきた。資料を学年職員が週ごとに輪番で提案し、指導案とワークシートを準備した。学年打ち合わせで、意図と指導の進め方を吟味して学年で統一して授業をおこなってきた。

各担任の個性や願いが道徳の資料に反映され、授業の進め方や生徒の反応についての話が自然とできて、担任として資料をどう扱うか、毎時間大変勉強になった。

1学期は、『新しい道』を中心におこない、2学期には、実態を考慮して映像資料やモラルジレンマの資料を使った。この実践から感じたのは、映像資料の刺激やモラルジレンマの要素が生徒からさまざまな意見を引き出し、ワークシートの記述が深まりを見せたことである。モラルジレンマの資料は生徒個々の内面の葛藤を促し、意見を交換しようとする原動力になる。その要素を計画的に毎時間の授業に組み込んでいくことで、もっと話したい、もっと考えたい、もっと人の考えを聞いてみたい、という生徒の欲求を引き出し、より主体的な取り組みが期待できると考えた。

#### (4) 生徒の実態との関連

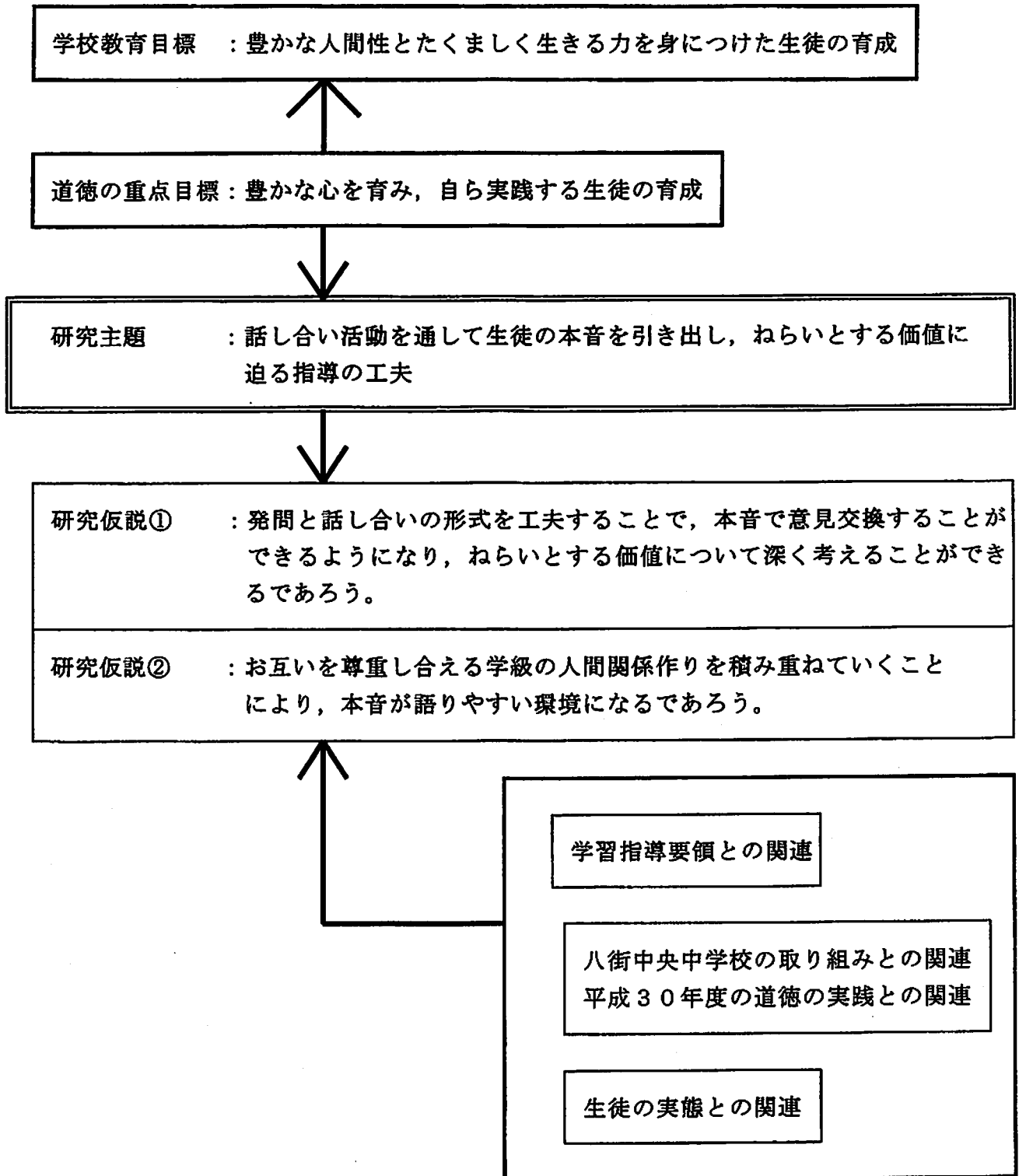
実践を行ったのは、2年次に学級編制を行った学級で、現在は3年生である。道徳の授業は、特別支援学級に籍を置く3名も含めて35人で行う。穏やかに学校生活を送れる生徒が多いが、行事に対する思いなどの価値観に大きな隔たりがあり、それが学級に冷たい雰囲気醸し出すような場面が多かった。「どうせ、やってくれない。」「勝手に盛り上がってればいい。」という冷たく割り切った様子がかがわれ、人間関係が冷めている感じだった。他の個性を受け入れられない背景にある自己肯定感の低さも感じられ、互いの良さを認め合う関係を築いていく必要性を強く感じた。道徳の授業では、一人一人の発言を大切に扱っていることを生徒自身が実感できるように心掛け、授業の感想を学級通信で紹介するなどの取り組みを行ってきた。教師を介して互いを知る関係から、互いに直接交流を深める関係に移行するためにも、生徒同士の話し合い活動が必要であった。グループ学習は日常的に行われているので話し合う基礎はできていたが、道徳の授業を通してより本音で話し合うことができれば、自他のもつ良さを認め合うことができるようになり、他に認められた経験から自己肯定感が育ち、道徳性の伸長にもつながると考え、本主題を設定した。

### 3. 研究主題について

「本音を引き出す」ということについて

・生徒が常識としての善悪にこだわらず、「自分はこう考えた。」と言えるようになることを目指す。学級内における今までの人間関係など、さまざまな思いを取り払って、「話したい。」と強く思わせ、その思いを自分の言葉で表現させるためには、教材を通して自己を振り返るきっかけをつかませたい。「そんなこと考えてなかった。自分は、どう思うのだろう。」という気持ちにつながる、意外性を含んだ発問の工夫、発問の主旨に沿った話し合いの形式の工夫をすることで、新鮮な気持ちをもって授業に取り組み、素直な気持ちで考えを交流する話し合いの中で、自己の考えを深められるようにしたい。

## 4. 研究全体の流れ



## 5. 研究の内容

### (1) 本音を引き出す工夫

#### ①発問の工夫〈仮説1〉

- ・ねらいとする価値に迫らせるために、良し悪しを判断するのではなく、深く考えて答えを模索していける形の発問にする。
- ・生徒が注目したり疑問に感じた点を手がかりにして言葉を工夫し、ねらいとする価値に迫るための基本から離れないように生徒の反応を想定して事前に準備する。

#### ②話し合いの形式の工夫 〈仮説1, (2)で記述〉

#### ③人間関係作りの工夫 〈仮説2〉

- ・日常生活における共通の目的や話題を通して、生徒同士がお互いに関心を持ち合うようにする。(主に学級活動、班会議や行事に向けての話し合い。)
- ・ささいな日常の出来事や係などの決まった役目でも、お互いに支え合っている事実を知り、そのことについて言葉で交流すること。(「ほっとニュース」「ありがとうの木」「頑張った人を見つけよう」)

### (2) 話し合いの形式の工夫

- ・発問や話し合いのテーマに迫るために適した話し合いの形式を考える。

#### ①生活班での話し合い

- ・班長を中心にして日常的に活動しているグループなので、話し合いをするときの基本の形である。決めごとをしたり、班活動等の反省を行ったりすることに適している。心の内面に迫る内容では、班ごとに話し合いの深まりに差が出る。

#### ②学習班での話し合い

- ・教え合い学習の基本の形で、授業の内容によっては意見交換を活発におこなう必要のあるグループである。生活班より少人数になることから、自分の意見が言いやすい。

#### ③話しやすい相手との話し合い

- ・あらかじめ決められたグループから離れて、生徒個々が話す相手を決めて行動する必要がある。学級の雰囲気や生徒同士の人間関係がかなり影響する。自分の思ったことを構えずに話すことができる。

#### ④同じ意見の者同士の話し合い

- ・意見が同じ者同士でグループを作って話し合う。意見が同じとわかっているので、安心感があり、自分の意見が言いやすい。相反する意見に対して自分たちの意見をまとめていくと、自分たちの考えの根拠をはっきりとさせていくようになり、グループの中での意見交換を中心に行うと、互いの意見の微妙な違いに気づき、新たな発見につながってねらいとする価値に対する考えが深まる。

#### ⑤意見の異なる相手との話し合い

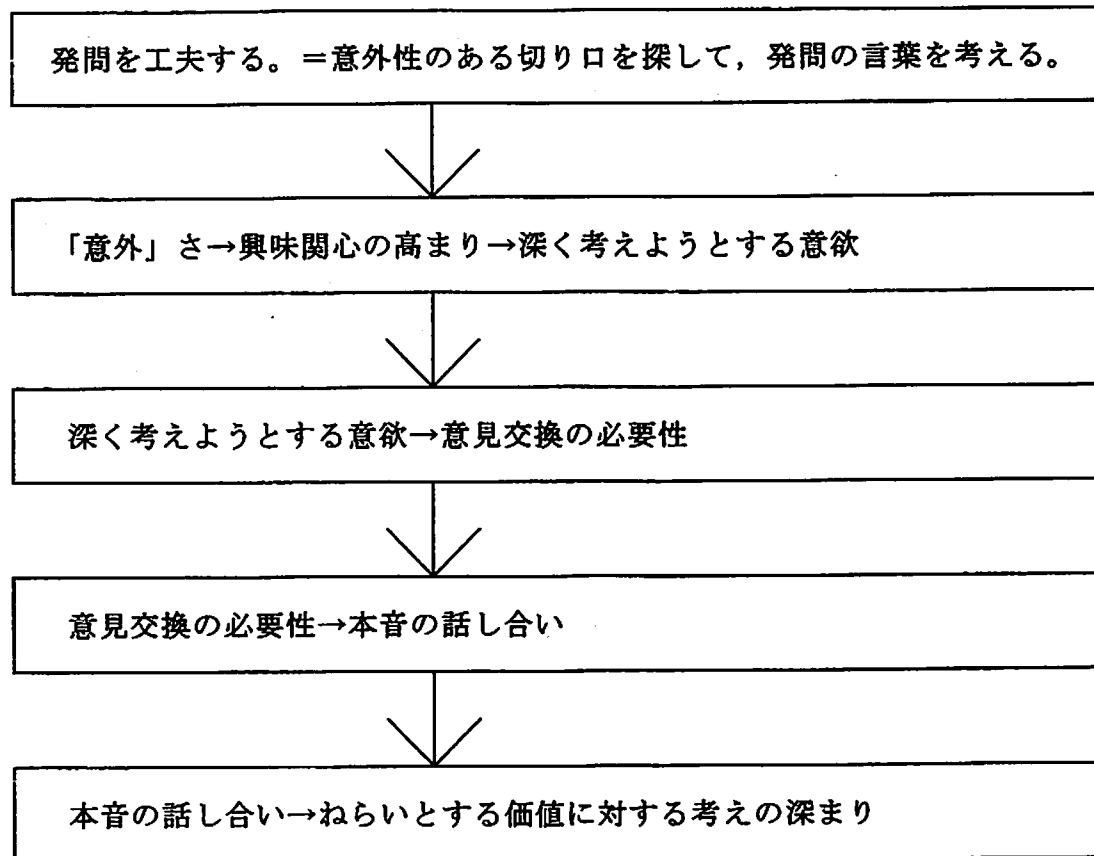
- ・意見交換の目的がはっきりとしていて、自分の意見を言おうとする意識が強まる。自分とは違う考え方に直接触れることで視野が広がり、自己を振り返るきっかけとなる。討論の形でも行うことができる。

## 6. 研究仮説について

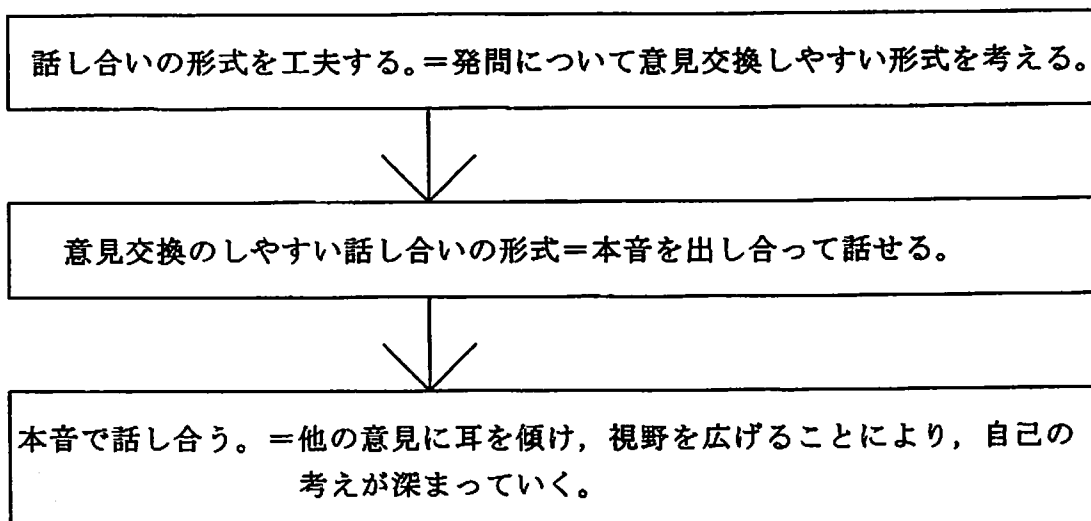
### 仮説1

発問と話し合いの形式を工夫することで、本音で意見交換することができるようになり、ねらいとする価値に対する考えを深めることができるであろう。

#### ○発問について



#### ○話し合いの形式について



1 主題名 互いの個性や立場の尊重 (内容項目番号B-(9))

(教材名 「あなたは顔で差別をしますか」 出典『あなたは顔で差別をしますかー「容貌生涯」と闘った五十年』(講談社 2008年))

2 主題設定の理由

(1) 価値について

内容項目B-(9)は、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくことを目指している。

人は誰でも豊かな個性をもち、その個性をもって互いに刺激し合い、認め合いながら成長していく。一人ひとりの個性は尊重されるべき素晴らしいものである。しかし、一般的でないもの、平均的でないもの、いわゆる「ふつう」でないものに対する反応はどうであろう。優れた発見や、美しい芸術作品などに対しては、感動し賞賛するが、必ずしも好意的で寛容な受け止め方ができる場面ばかりではない。強い拒絶反応を感じて、その感情をあらわにすることもある。その反応は、ときに「いじめ」につながるなど、頭ではわかっているにもかかわらず自制できないことがあるのも事実である。

他の個性を寛容に認めて受け止めることができないことは、自己の個性についても自信をもって示せないこととつながっている。自分の個性を自分自身が認められず、他者に対しても懐疑的、批判的になるという悪循環は、住みにくい社会を作ることとなる。自分も他者も、いろいろな考えやものの見方を持っている個性豊かな興味深い存在であることを知るのは、伝え合うことによる発見からである。他者の話を聞き、新たなものの見方や考え方に触れることで、視野を広げ個性の伸長につながれることと、自分自身が他者の視野を広げる存在になり得ることを知り、自分の個性を尊重する気持ちにもつながっていく。人の立場や個性を理解し尊重するということは、現在の自己を理解して自己肯定感をもつことと、他者に学んでさらに成長しようとする姿勢につながるのである。

このことから、人との関わりを通して互いの個性を尊重し合うことは、豊かな人間関係を築き、より良い社会を構築していくことにもつながる。より良い社会の基礎には、より良い人間関係がなければならない。人と人との繋がりが好意的で豊かであること、互いに認め合い高め合う関係であることの大切さを改めて実感し、謙虚に他に学ぶ姿勢を育てることが求められていると考える。

(2) 生徒の実態について (男子19名 女子16名 合計35名)

本学級は、2年生の進級時に編制されたクラスである。始めのころは、女子が男子の行動に拒絶反応を見せることが多く、驚く場面があった。積極的ないじめではないが、拒否という冷たい関係である。日々の活動には責任感を持って臨める生徒が多く、人間関係の希薄さが学級活動に支障を来すことはなかったが、担任が空回りする場面もあった。個々に目を向けると、行事を充実させたい、日々楽しく生活したい、思い出に残る楽しいクラスだと嬉しいといった、学校生活に意欲的な生徒が多く、学級集団として豊かに成長する可能性を感じた。リーダーたちの地道な努力と、学習活動で、話し合い活動を頻繁に取り入れる環境もあり、少しずつ関係が修復されてきた。修学旅行のさまざまな決めごとも、リーダーを中心に時間をかけずに決められて、個人と集団としての成長を実感している。3年生として迎える最後の体育祭や合唱コンクールに向けて、より互いを尊重し合う関係を築き、自分たちの力を信じ合って達成感を味わってくれることを期待して、ねらいに迫りたい。

ねらいに迫るための実態の把握として、アンケートを実施した。

- Q1. 人の第一印象は、どこで判断していますか。  
①顔 (17)    ②態度 (20)    ③話し方 (10)  
④その他 (・表情 2 ・目つき ・人が集まっているかいないか ・気 )
- Q2. 人に対する第一印象が、変わったことはありますか。  
①よくある。(19)    ②あまりないが、あった。(8)    ③ない。(3)
- Q3. Q2で、①・②と答えた人に質問です。印象が変わったときは、どのようなきっかけがありましたか。  
①話をした。(19)    ②相手の態度 (10)    ③人の噂を聞いた。(3)  
④その他 (・表情 ・話し方 ・行動 ・考え方 )
- Q4. Q3で答えた人に質問です。悪い印象からよい印象に変わったことはありますか。  
①ある。(19)    ②ない。(8)
- Q5. Q4で①と答えた人に質問です。印象が「悪い」から、「よい」に変わったのはどんなときでしたか。  
①話をした。(17)    ②相手の態度 (9)    ③人の噂を聞いた。(1)  
④その他 ( なし )

アンケートの結果から、見た目や初めて接したときの態度で第一印象が決まることを、ほとんどの生徒が経験していることがわかる。生徒達の場合は一般的なものであり、悪い印象を持ったとしても、良い方向に変わることも経験しているから、健全な対人感覚を持っていると、捉えられる。話をすることで相手に対する気持ちが変化することも多くの生徒が経験していることなので、「顔が腫れている人に会ったらどう感じるか。」という問いはしていないが、差別的な反応は少ないと予想される。このことから、見た目で差別することの間違いを正しく判断する生徒は多いと考えられる。見た目による差別を受けて対人関係の苦しさを経験した筆者の話に触れることは、一般的な「差別は間違っている」という考えより更に深い意識へ生徒達を導くと思われる。また、筆者が自分の意識を変えていく過程でつかむ個性尊重の深い意味を、生徒同士の意見の交流を通してつかむようにして、互いの立場や個性の尊重という価値に迫らせた。

### (3) 教材について

医学博士の藤井輝明氏が病気による容貌障害と闘って、実際に経験したことと感じたことが書かれている。2歳の時に発症して以来、すさまじいじめにも遭い、周囲がみな自分を攻撃するかのようになっていく中で、だんだん自分自身が相手をにらみつけるようになっていったこと、友人の言葉で笑顔を取り戻し、人を変えるのではなく自分が変わろうとすることで、本当の意味での個性のすばらしさ、個性尊重の大切さを実感するようになった、という内容である。病気による容貌障害という、抜け出せない苦しみを持つことで、自己の良い個性を見失っていたという内容は、差別や偏見と言った価値項目にとどまらない観点があり、誰にも人と比べられない個性があるという筆者の言葉は、成長期に自他の個性と向き合っていく生徒達に訴えるものは大きい。自分の個性も他者の個性も、かけがえのないものである。それは、他者に学びつつ自分自身のものの見方を育てていく過程で見えてくるのだ、と語りかける筆者の言葉に触れて、今後の自己の成長に希望を見出す生徒が多いと感じる。筆者自身の葛藤が生徒に語りかけるものは多い。2時間の展開で、じっくりと他者の意見にも耳を傾ける時間を設定し、教材の価値に迫らせた。

### (4) 指導観

本教材を2時間の展開で行う。1時間目には教材をじっくりと読んで、自己の考えを書くようにする。教材の言葉で自分が最も感銘を受けた部分に線を引き、その部分から自分が考えたことをワークシートに記入するようにする。記入の仕方については、例を示すことで自分の考えを十分に書けるようにする。ワークシートは回収し、生徒が書いた内容を確認しておく。次の時間の話し合いに向けてグループ分けをしておくが、生徒自身がグループを判断できなかったときのアドバイスを



するために生かす。

2時間めの本時は、教材の4つの小見出しに沿って内容を振り返ったあと、話し合い活動を行う。前時にワークシートに記入したことを確認させ、自由に移動してグループを作るようにする。自分と同じ部分に感銘を受けている級友とのグループで、気づいたことについて意見を交換し、自己の考えを深めるようにする。同じ部分に感銘を受けていてもグループにたどり着けない生徒に配慮する。その場で作るグループであることから、話し合いのリーダーシップをとれる生徒がいないことも起こりうる。まず、ワークシートに記入した自分の考えを伝え合うようにして、他者の考えに触れられるようにする。同じ部分に感銘を受けていても色々な受け止め方や考え方があることに気づき、自分のものの見方や考え方を広げていけるように配慮する。誰にも人と比べられない個性があるという気づきから、一人ひとりの個性を尊重し、互いの個性を寛容に受け止める姿勢を持って、人という存在のおもしろさを十分に感じられるようにする。また、人の個性に対する受け止め方の変化を振り返って自分自身の成長を実感できるようにする。

#### (5) 仮説1について

発問と話し合いの形式を工夫することで、本音で意見交換することができるようになり、ねらいとする価値に対する考えを深めることができるであろう。

#### ①発問の工夫

話し合い活動を活発に行うことを通して、ねらいとする価値に迫らせるための発問である。筆者はひどいじめに遭ったことから、自分自身の良さまでも見失いそうになるが、友人の言葉で自分の個性を大切に生きていくことの大切さに気づく。その生き方に注目させるために「藤井さんの生き方からどんなことを学べるだろう」を主発問とした。

#### ②話し合いの形式の工夫

筆者の生き方に迫る切り口として、印象に残った部分に線を引かせ、自分が注目した筆者の言葉についてより深く自分の内面と向き合わせるために、話し合いの形式を考えた。さまざまな視点があることに気づく過程で、自分が目を向けたものの本質は何か考えさせたいと考え、話し合いの形式を2段階に分けた。1段階目で、自分と同じ視点を持った仲間を捜すようにし、さまざまな視点に気づかせる。次の段階で、同じ視点のグループを作って話し合い、他者との意見の交流を通して自分の考えを深められるようにした。

#### (6) 指導計画

	指導のねらい	学習活動
一時間目	○容貌障害によって差別を受けた筆者が、自分の意識を変えていくことで、個性の大切さを実感していることに気づくようにする。	・教材を読む。 ・感想を書く。 ・自分が感銘を受けた文章に線を引く。 ・線を引いた箇所のうち、最も感銘を受けた箇所をワークシートに書き写し、その部分について考えたことを書く。 ・次時の見通しをもつ。
二時間目	○それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心をもって相互に理解し、謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする態度を育てる。	・前時を振り返り、教材の4つの小見出しに沿って内容を振り返る。 ・グループ学習を行って、意見を交換し自己の考えを深めていくことを確認する。 ・グループを作って話し合い活動を行う。

本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループになって、自分の感じたことを伝え合い、考えを交流する。</li> <li>・意見交換を行って感じたことや、人の個性に対する受け止め方について、自分がどのように変化したか、気づいたことをワークシートに記入する。</li> </ul>
--------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 3 本時の指導

#### (1) ねらい

それぞれの個性や立場を尊重し、寛容な心をもって相互に理解し、謙虚に他に学び、自らを高めていこうとする態度を育てる。

#### (2) 展開

過 程	時 配	学習活動と主たる発問 ・予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点	資料
導 入	15 分	<p>1 前時を振り返る。</p> <p>○前時を振り返り、教材の4つの小見出しに沿って内容を振り返る。</p> <p>「理不尽ないじめ」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見た目の問題は、自分にはどうしようもないことだから、差別するのはおかしい。</li> <li>「正しい知識があれば」について</li> <li>・噂に振り回されることはない。</li> <li>・相手を正しく理解できる。</li> <li>「人には理性があるのだから」について</li> <li>・嫌だなと思っても、顔に出さない。</li> <li>・相手のことを考えれば、我慢できる。</li> <li>・自分にもあることだと考える。</li> <li>「自分と未来は変えられる」</li> <li>・他人と過去は変えられない。</li> <li>・病気であることは変えられない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートを配布し、前時の活動を振り返るようにする。</li> <li>・教材の小見出しに沿って内容を確認しながら、筆者の思いや考えの変化を確認できるようにする。</li> <li>・前時に自分がどのようなことに気づいたか振り返るようにする。</li> </ul>	ワークシート 教科書
展 開	25 分	<p>2 学習活動とめあてを確認する。</p> <p>○グループ学習を行って、意見を交換し自己の考えを深めていくことを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎藤井さんの生き方から、どんなことを学べるだろう。</p> </div> <p>3 グループでの話し合い活動を行う。</p> <p>○グループを作る。</p> <p>自由に立ち歩き、互いのワークシートを見せ合いながら、同じところに感銘を受けた者同士のグループを作っていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由に立ち歩いてグループを作れることを説明する。</li> <li>・ワークシートを見せ合ってそれぞれの考えを知るようにすることを伝える。</li> <li>・グループ作りに意欲を持てるようにする。</li> <li>・級友との交流が難しいと感じる生徒に同行し、グループ作りに参加できるよ</li> </ul>	ワークシート 教科書



○意見交換する。

- ・グループになって、自分の感じたことを伝え合い、考えを交流する。質問し合いながら互いの考えを深めていく。
- ・自分が人をにらみつけたりするのは嫌だったと思う。それを変えようとしたことが良かったと思う。
- ・いい友達がいるアドバイスされたことが良かったと思う。自分を理解してくれる友達の存在は、大切だと思う。
- ・不満ばかりだと自分自身を嫌いになってしまうのだと思う。自分が嫌いだと、人も好きになれないと思う。



- うにする。
- ・グループごとに座る場所を指定し、少人数になるグループを事前に把握して、意見の交流ができるグループと合流するようにする。
- ・意見の交換は、自分の書いたものを伝え合うことから始めるようにして、リーダーがいなくても話し合いができるようにする。
- ・互いに質問しあって考えを深められると良いことを伝える。



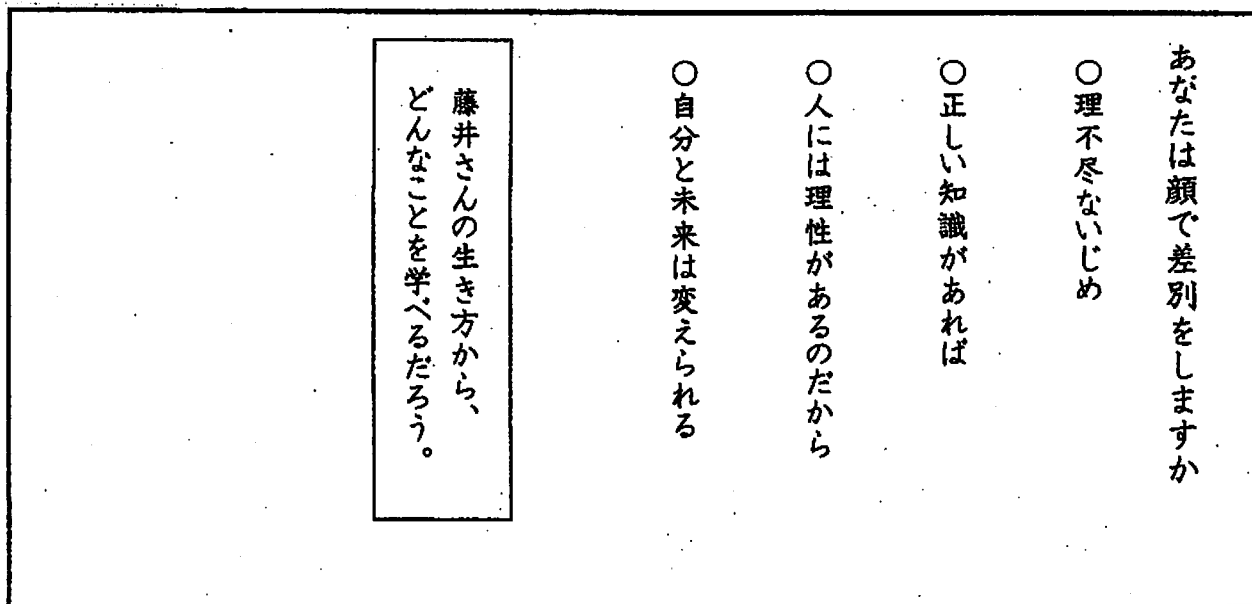
終末

10 4 振り返りを行う。  
○意見交換を行って感じたことや、人の個性に対する受け止め方について、自分がどのように変化したか、気づいたことをワークシートに記入する。

・率直な感想が十分に書けるよう、話し合い活動とのけじめをつけて書くようにする。

ワークシート

### (3) 板書計画



#### 4 他の教育活動との関連

##### ①教科指導

八街中央中学校では、各教科の学習活動に、グループ学習を取り入れている。授業中に4人グループを作って話し合ったり教えあったりすることは、生徒の日常的な活動になっている。また、国語科では、課題を自分たちで見つけて取り組む学習を行っている。交流を通して自分にないものを見つけたり新たな価値観に出会ったりする学習の機会を継続して行っていきたい。

##### ②特別活動

3年生は、今後、進路選択を進めながら中学校で最後となる行事に取り組んでいく。学級集団として団結を強め、互いを支え合える存在と強く意識することは、辛い時期を乗り越える力となる。充実した取り組みになっていくためにも、互いを尊重する姿勢を育てていきたい。

##### ③日常での指導

2年次に道徳で行った「1秒の言葉」で、半数以上の生徒が「いままでかけられて嬉しかった言葉」として「ありがとう」をあげていた。係や委員会活動は、分担された行うべき仕事ではあるが、「やってもらって良かった」と意識することで互いを認め合い尊重し合うことに繋がり、自己の活動の原動力になる。互いに尊重し合える関係をより確かなものにしていくためにも「ありがとう」という言葉を掛け合うことを意識させていきたい。

# あなたは顔で差別をしますか



外見だけで人を判断してしまったことはいないだろうか。

理不尽ないじめ

私には、二歳で発症した病気があります。病気の名前は「海綿状血管腫」です。海綿動物がブクブクと膨れるイメージで、血管の壁にできた良性腫瘍が腫れてくる病気です。運が悪いと腫れた血管が破裂して、失血死にいたることがありますが、私は二歳の時にこの病気を発症しました。両親が、私の顔が赤くなって少し膨れてきているのに気づいたのが二歳だったという事です。

そのせいで、人とは異なる容貌をもっています。バツと見ますと、私の顔の右半分が腫れて膨れ上がっているのが特徴です。目のところも腫れ上がっているし、唇もよく見ると垂れ下がって曲がっているようだと

し、なんなのだろうかと誰もが思うことでしょう。

重ねて言いますが、これは病気です。でも、がんのように全身に転移し、人間を死にいたらしめる悪性腫瘍ではなく、ほとんど転移することはありません。また、人に感染することもありません。

二歳で発症した時、両親はさうどう心配したようです。人から中傷もされたのでしよう。その後両親は、東京はもちろん、全国の大きな病院を100以上、私を連れて回りました。両親ともにとても勉強熱心で、私の血管腫の原因を探るために一生懸命でした。

そんな努力もむなしく、効果的な治療法は見つからず、私は小学生になります。そしてひどいじめの時期に突入です。

「バケモノの病気がうつる。近くに寄ると顔が膨らむぞ。俺たちの近くにあんなやつがいるのはイヤだね。」とか言われるわけです。そして友達が一人減り、二人減ります。

ガキ大将グループが襲いかかってくると、「ダメだ、つらい。」と思い、本当に落ち込んでいきます。自尊心が粉々に砕かれ、弱くなっていくのです。弱いからいじめられるのではなく、いじめられて弱くなっていく。こんな自分と友達でいてくれる人なんか、誰もいないと思えてくるのです。

また、私の近くにいると、自分たちまで冷やかされたり、からかわれたり、いじめられたりしますから、近くに寄るのはよそうというように、友達の中には「傍観者」が増えてくるのです。見て見ぬふりをする人たちがいます。

聴衆や観衆もいます。ちょうど、野球場やサッカー場の観客席で試合を見ているような聴衆や観衆も増加します。見ているだけなので、自分たちは安全です。「藤井がいじめられている。おもしろいぞ。やれや

れ。」

そう言って拍手を送る聴衆や観衆です。このように傍観者、聴衆、観衆といった人たちが増加し、友達がいじめられても落ち込んでいきますので、だんだん自分が客観的に見えなくなるのです。「自分は孤独だ」と崖っぷちに追い込まれたような焦燥感にかられます。

これがいじめの怖さです。しかも、いじめられているのは見た目の問題であって、自分にはどうしようもできないことです。

こんな理不尽なことがありますか。本当に腹が立つてきます。

正しい知識があれば

私が幼稚園に入ると、その幼稚園に匿名の電話がかかってきたそうです。

「藤井さんのところの息子さんの顔が膨らんでいますか。あの赤い膨らみはうつる病気ではないのですか。子どもたちと一緒の教室にいさせてください。どうしようもない

あなたは顔で差別をしますか

ですか。」と。

もちろん海綿状血管腫はうつる病気ではありません。血管壁にできた良性の腫瘍ですのて、うつらないのです。遺伝する病気でもありません。

しかし、「うつる病気なのではないか。」という大人の不安は、子どもに伝染します。その結果、「バケモノ。」「こっちに來るな。」などという、すさまじいいじめとして、襲いかかることになるわけです。いつでも「無知」は悲劇を生みます。

ですから私は、いろいろなどこまで、「正しい知識や情報をしっかり勉強している。学んでいる。」「と、直接訴えています。「うわさやデマは正しい知識や情報に基づかないことが多い。」と、言いきっています。

勉強する目的はなんでしょう。もちろんさまざまな理由があります。しかし、立身出世や将来偉くなるためだけに学校で勉強するべきではないと、いつも言っています。勉強するということの定義は、こんなことだと信じています。

のは、率直に言って、あると思います。どんな人にも苦手なものがあるように、嫌いだという感情は誰にもあるでしょう。そういう嫌悪感というのは、それをなくせと言われても、たぶん難しい問題です。嫌悪感というのは立派な感情の一つですから。

しかし、私たち人間には「理性」というものがあります。その嫌悪感を自分の心の中だけに収め、カバーするのが人間ならではの理性です。私としては、この人間ならではの可能性を信じたいのです。

差別、偏見、いじめというのは、社会から完全になくなることはないかもしれません。資本主義社会というのは、人よりも自分が優越であるという、そういう意識、欲望というのをうまく活用して発展してきた社会ですのて、人よりも少しでも上回りたい、みたいなところがあって、それが意味で活力になっているところもあるからです。

けれども、悲しみの中で暮らしている人たちもいるんだということも忘れない理性を失ってほしくないのです。理性というのを難しくすることのようですが、つまり

「学校で正しい知識や正しい情報をしっかり学習することによって、うわさやデマに振り回されないようにする。うわさやデマを自分がまき散らさないようにする。」

これも自分の体験からです。私が何度も体験してきた「うつる病気じゃないのか。」という言葉は、まさに海綿状血管腫をきちんと学習しようとしないうつらから起きたものです。

そういうことをきちんと学んでいただければ、「なんだそうか。藤井くんの顔の膨らみは血管の壁が盛り上がる病気て、そういう人も世の中にはいる。」と認識し、うわさやデマに振り回されることはないわけです。

人には理性があるのだから

差別やいじめをなくすには、「思いやる気持ち」もとても大切な鍵となります。

「顔が腫れている。ああ、なんか気持ち悪いな。」

「この顔、嫌いだな。写真と一緒に収まるのが嫌だな。」  
そんなふうに、見た目からわき起こる嫌悪感という

はつらい体験とか、思いをしているんだらうなという共感性のことです。もっと簡単な言葉で言えば、思いやりの心。その心をもち続けることは、とても大事なことです。

自分と未来は変えられる

外を歩いていて人とすれ違うとき、その人をにらみつけていました。「なんて僕の顔をじろじろ見るんだ。」と。二十歳くらいまで続きました。電車やバスの中で、人の視線が突き刺さるからです。「このバケモノ。よくそんな顔して生きているな。」なんて、えげつないことを言われたりもしました。

そんなとき、必要以上に自分を弱く見られないようににと、にらみつけていたのです。いつも悪口を言われるわけではないのに、「なんだ、このバケモノは。」みたいに思われているのでは、と自分でそう思いこんでいたわけです。

にらみつけていると自分も苦しいのです。つらいのです。また、なにげなくちらりと目が合ったただけの人

学びの道しるべ

- 1 藤井さんは自分のどんなところを変えたのだろうか。それによってどんな変化が起きたのだろうか。
- 2 藤井さんの生き方から、あなたはどんなことを学んだのだろうか。
- 3 差別や偏見のない社会を築いていくためには、どんなことが大切なのだろうか。

も、私ににらみつけられるので、「なんだ、コイツ。」と嫌な感情が芽生えてしまう。もう、悪循環です。ところが、ある時に友達が、「藤井さんは笑顔がキーントだから、いつもにこにこ笑っていたほうがいいよ。」と言ってくれました。私も笑顔でいたほうが楽でしたから、目が合ったら、にらみつけるかわりににこっと笑うようにしてみました。

目をそらしてしまう人もいましたが、こちらの笑顔に、思わず笑顔で応えてくれる人もたくさんいました。私は長い間、自分で自分の心に壁を作っていたのです。他人をシャットアウトして、自ら拒絶していました。

けれど、それはよくありません。差別される、いじめられると感じたときには、自分の心の壁をとっぱらって、一歩前に踏み出すことも大切です。

過去と他人は変えられませんが、自分と未来は変えることができます。だから、自分の日常をちょっと変えてみる。すると、自分の周囲の人がそれに影響されて、変わってくるのが手にとるようにわかるはずですよ。



私の体験も踏まえて考えますと、他人と比較することが、往々にして自分の生きるペースを乱してしまうように思えます。一人一人が誰にもまねできない個性、チャームポイントをもっています。その個性を他人と比べることは必要ないのです。自分にしかないものをお互いに比較することに、いったいどれほどの意味があるのでしょうか。むしろ、自分には世界に一つしかないかけがえのない存在であって、

その自分の価値や個性をしっかり見つめて、自分自身に誇りと自信をもって生きていこう、と訴えたいのです。

比較するとしたら、自分の過去と比べるべきです。過去の自分と比べて、少しでもチャームポイントが増えたかな、成長したかな、という点です。もちろん、人生にはときにちょっと立ち止まって休憩、というこ

ともあります。でも、たとえ半歩でも一歩でも成長していく、その前とあとを比較するといいてしよう。個性を他人と比べることをやめるべきです。また、周りから幸せ、不幸せを影響されない、強い気持ちでいたい、私はいつも思っています。

文・藤井輝明 / 「あなたは顔で差別をしますが」による

# 道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

月 日

( )

( 氏名 )

)

○感想を書こう。
1. 一番印象に残った言葉
<ul style="list-style-type: none"> <li>・抜き出して書こう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。</li> </ul>
2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。
○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

授業をふりかえって (○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。		話し合いに参加できましたか。	
人の意見を聞いて考えることができましたか。		ワークシートに自分の考えを書けましたか。	



道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

月 日

(氏名)



道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

月 日

(氏名)

○感想を書こう。

顔に腫瘍が出来るのは、本当に辛いことだと思います。  
 自分に対して、他人もそれと同じように見られるのも、とても辛いことだ  
 と思って判断する人が少なくなくて、自分も同じように思っているのと  
 自分がわかればいいなと思いました。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

半歩でも、一歩でも成長していく、以前と自分を比較すると  
 いいでしょう。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

自分の成長をちゃんとみることに、今までできてきたという  
 ことがわかるからというのを感動しました。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

自分のダメな所は、なおせば、よくなるかもしれない事を思っ  
 て、やっぱり最初は、自分が変わることに大切だと  
 思いました。自分が変わるには、相手もかかってくる。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

人と比較して、考えている事は似ても、よく聞いてあげれば、1人1人思っ  
 ている事が違って、やはり聞いてみることに、内容が深まるから、いいなと  
 思いました。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	△	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることが できましたか。	○	ワークシートに自分の考えを 書けましたか。	○

○感想を書こう。

自分の考えが他人に伝わってほしいと思いました。  
 誰かにも感情があるという事を理解して、言葉の重みなどを考  
 える事が必要だと思いました。自分にあるその目他人にはなくて他人  
 にある事は自分にもない事を考え、自分を強く持とうと思いました。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。私の付点文も踏まれてきまして、

他人と比較することが、往々にして自分の生きるペースを失ってしま  
 うように思います。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

この文に自分も他人が本当に幸いしたいとして生き残れる事に  
 対して、自分が人じゃあかると思っていた。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

自分の個性は、周りとは違って、周りがの評価は自分とさしめるだけ  
 という考えが多かったです。それに、よく共感で自分  
 や他人を比べるよりも個性として受けとめる事が大事で、  
 みんなが良い気持ちになるためにはそれが必要だと思  
 いました。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

相手に気を遣う事で自分は救われる事もあるが、自分もこ  
 ろ、そういう事を考える時に相手もこう思うかもしれないという事を考  
 えてほしいと思いました。傷つけ合っている事は傷つけ合っている事  
 だと思います。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	○	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることが できましたか。	○	ワークシートに自分の考えを 書けましたか。	○

道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

( )

(氏名)

月 日

B

〇感想を書こう。

つらいことを乗り越えて、みんなに強い心をもつことができるのはすごいと思った。他人と比べるより自分を認めることが重要なんだということがわかった。人には1人1人個性があるんだからそこを理解して自分の気持ちを理性でカバーできたらいいなと思った。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

一人一人が誰にもまねてきかない個性、チームポイントを持っています。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

自分と他人でどちらが優れているかなんて比べなくていい。自分を尊重するべきだという考え方がいいなと思ったから。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

考えていることがいろいろで、比べるからこそいいことと、比べてはいけないものについて話し合えて考えを深められたのでよかった。

〇今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

差別はいけなしいし、人はいいところも悪いところもあるんだから何でも比べたりせず、受け入れることが大事だと思った。

授業をふりかえって(〇、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	<input type="radio"/>	話し合いに参加できましたか。	<input type="radio"/>
人の意見を聞いて考えることができましたか。	<input type="radio"/>	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	<input type="radio"/>

道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

( )

(氏名)

6月2日

〇感想を書こう。

顔で差別されてつらいのは、一歩を踏んだとして笑いかけて、前向きな気持ちでそれを乗り越えたい。それにはできない人は多いから、それ。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

その個性を他人と比べる必要はないので。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

よく聞いてその通りだと思ったから。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

- ・比べる意味のないことを比べてしまう。
- ・比べてプラスになることやマイナスになることもある。
- ・競い合うことと比べることとはちがうと思った。

〇今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

人の顔を否定することは、その人のもって生まれたものを努力して否定することになる。スポーツなどを通じて、技術的なことを競い合うことはあるが、人のもっているものを否定してはならない。

授業をふりかえって(〇、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	<input type="radio"/>	話し合いに参加できましたか。	<input type="radio"/>
人の意見を聞いて考えることができましたか。	<input type="radio"/>	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	<input type="radio"/>

○感想を書こう。

顔だけで差別するなんてしてはいけないことだ。  
 顔だけでいじめをするなんて、それは顔がすべてで、その人にはその人が持っていることで個性がある  
 と思いました。むしろいじめを言わなくても、それを更に悪いにするのはよくない。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

差別やいじめをなくするには「思いやりを持ち」をとても大切

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

たしかに、思いやりの気持ちがあることは、いじめは  
 なくなると思う。思いやりの気持ちは相手にちゃんと伝えるか  
 らいかにいじめをなくしていくか、いじめをなくしていくには笑顔が大切だ。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

自分が持っている強い気持ちや、チームポイントで周りの人たちに  
 笑顔にしたり、幸せにすることができると、と思いました。  
 周りに何を言われなくても、自分自身の強い気持ちでうめき通す。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

人それぞれ思うことがちがうから、自分の意見と他の人の意見  
 は必ずしも自分最初考えたのとまた別の新しい意見が  
 出てくるから意見をいろいろ合うのはいいことだ、と思いました。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	○	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることができましたか。	○	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	○

○感想を書こう。

満腹だから、しぐたがたのいのに、イジメかけ  
 るの、ちからと思っ、公のちから、あいの電話が、一番あつた  
 と思っ。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

周リから幸せ、不幸せを影響されない、強い気持ち

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

より通りの強さを考へて、自分をいじめられ  
 自分をいじめられる強い気持ちを持つこと、思っ。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

強い気持ちと、一言で言っても、自分の決めた  
 事は曲げないとか、たけしなく、イジメられても  
 負けたくない、とあるんだ、と気付いた。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

言葉の単語は、一つでも、意味が  
 一つもない、と、思っ。  
 印象に残った言葉が、いじめ、強さ、と、思っ。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	○	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることができましたか。	○	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	○

道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

D

6月21日

(氏名)

○感想を書こう。

・周りからひどいことを言葉でかけられたのは聞き通ってるのが自分には  
 ではないだろうと思うから。この人は強い人間だ"なと思った。  
 うつろのどはなにかと心配ある気持ちも分かる。けど"それをそのまま  
 受け取るのは、知ろうとするのが2人人間性がかわってるのではないか" 思った。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

過去と他人は変えられません。自分の未来は変えることができた。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

自分も変わりたいと思った時期があったから。自分で変わろうとする人は  
 変えられるんだというところが改めて分かったから。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

・みんなはかしたことがあつた。  
 ・自分が変われば相手も変わってくれるんじゃないか。  
 ・失敗した事は逆に考えと次に生かせるま。かけていこう。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

・同じ言葉を選んでも、考えることが全然ちがった。  
 ・顔のことから始まった内容から2人に分けたりあることができるんだと  
 思った。  
 ・これから失敗することがあるだろうけど、自分で変えようと思えばいい と思った。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	○	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることができましたか。	○	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	○

道徳ワークシート「あなたは顔で差別をしますか」

E

6月21日

(氏名)

○感想を書こう。

藤井さんの顔を見ただけで悪くない表情をしていて、  
 自分も知らないで対比し偏見をすることは ない。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

バラス

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

に気がついていても、自分が変わらなと相手の態度も変わらない

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。		話し合いに参加できましたか。	
人の意見を聞いて考えることができましたか。		ワークシートに自分の考えを書けましたか。	

○感想を書こう。

藤井さんは他人と比較することか自分の生きるスペースを乱してしまおうと考えていて、自分は自分、他人は他人周りの事を気にしないで、自分らしくすることが一番楽しく下れると思いはれた。

1. 一番印象に残った言葉

・抜き出して書こう。

一歩前に踏み出すこと。

・一番印象に残ったのはなぜだろう。考えて書いてみよう。

自分で自分の心に壁を作っている。

2. みんなの考えを聞いて思ったことを書いてみよう。

同じ考えでしたけど、それぞれ思っている事は別うこともあったように思いました。

○今回の授業を振り返って考えたことを書こう。

同じ事を考えている人が2人だけで「何か何か話しかけようか」とか「何か話しかけてみるか」とかいろいろ考える事ができました

授業をふりかえって(○、△で自己評価して書いてください。)

積極的に発言できましたか。	○	話し合いに参加できましたか。	○
人の意見を聞いて考えることができましたか。	○	ワークシートに自分の考えを書けましたか。	○

グループに分かれた後の話し合いのテーマ

	人数	テーマ
A	7人(男4人 女3人)	何を「比較」するのか
B	5人(男3人 女2人)	「比べる」ことの意味
C	7人(男3人 女4人)	自分の個性を大切にすること
D	4人(男0人 女4人)	自分から変わる事
E	6人(男6人 女0人)	自分が変わる事の意味
F	2人(男1人 女1人)	一歩踏み出す大切さ

20

仮説2

お互いを尊重し合える学級の人間関係作りが、話し合い活動をしやすい環境につながるであろう。

人との関わりについて考える。→自分と人の良さを知ろうとする。

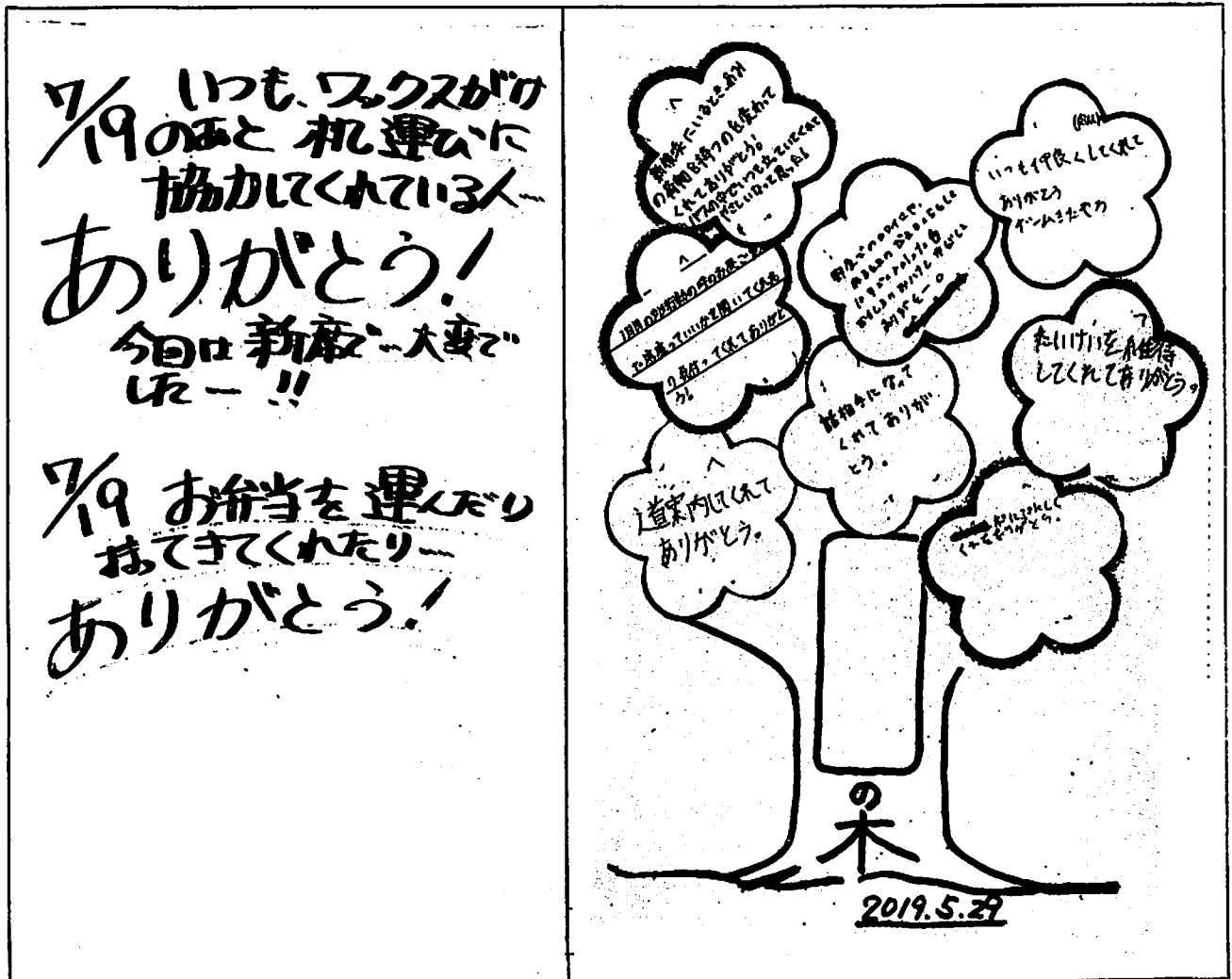
自分と人の良さを知ろうとする。→お互いを尊重し合う。(認め合う。)

お互いを尊重し合う。(認め合う。)→話しやすい環境(関係)

○仮説2に対する実践

「ほっとニュース」

「ありがとうの木」



## 7. 成果と課題

### (1) 成果

- ・発問や話し合いのテーマに沿って話し合いの形を工夫することで、生徒の意欲を引き出すことができた。生徒の意欲の高まりが、本音で話すことにつながった。
- ・生徒の話し合いの内容が深まることで、ねらいの価値に迫る発問をさらに模索することができた。

### (2) 課題

- ・発問の工夫に取り組み、生徒の意欲や思考の深まりを目指したが、話し合いの過程を考慮して追加する発問についてももっと熟考しなければならないと感じた。生徒の話し合いの方向がどこに向いていくか、さまざまに想定していく必要性を感じた。
- ・今回の実践で、自分たちでグループを作っていく形を取ったが、2人組のグループに十分な配慮ができなかった。グループを作っていく過程で、考えを深めていくことはできたが、グループの話し合いとしては物足りなさを感じさせてしまった。視点が同じ者同士の話し合いという前提であったが、臨機応変に対応するべきだった。
- ・グループで話し合ったあとに、全体で共有する時間がなくなってしまった。個人の感想をフィードバックすることは学級通信等で行えるが、話し合い直後の感想の共有がもたらす効果には及ばないものもあるので、時間配分を考慮する必要がある。
- ・教材を2時間展開で扱ったが、年間計画にそった授業の進め方に見通しを持たなくてはいけない。